

12/10

認知症センター市民公開講座を開催

産業医科大学病院認知症センターは北九州市認知症疾患医療センターとして指定されており、鑑別診断とその治療、身体合併症と行動・心理症状の対応、専門医療相談、診断後支援のほか、地域とのネットワークづくり、認知症に関わる情報の発信という役割を担っています。

2025年は団塊の世代（1947年～1949年生まれ）が全員75歳以上となる年であり、国民の約4人に1人が後期高齢者となる「超高齢化社会」を迎えます。このような社会状況から、今後はシニア世代の社会参加や社会的な活躍がますます求められていきますが、その一方で、認知機能低下は誰にでも起こりうるとても身近なことと言えます。何歳になっても自分らしく生活できる社会を実現するためにも、“認知症”を過度に恐れるのではなく、正しい知識を得ること、予防や治療を無理なく継続することが大切です。

そこで今回は、「において味がサインかも？認知症との知られざる関係」というタイトルで、市民の方を対象とした講座を開催しました。嗅覚や味覚などの障害は認知症と深いかわりがあることが分かっており、早期発見に役立つ可能性が示唆されています。講演は、①当センターの橋口賢一医師が「感覚で気づく認知症—において味の変化から—」②嗅覚・味覚センターの柴田美雅部長が「嗅覚障害—原因は鼻だけではないんです。実は脳も！」③栄養部の砂川佳奈子管理栄養士が「認知症の栄養管理について—味覚障害を中心に—」という3部構成で行いました。

この講座は沢山の方に関心を寄せていただき、約100名が参加しました。受講者からは、「五感と脳の関係について関心を持つことができた」「嗅覚のしくみについて学ぶことができ、困ったら嗅覚・味覚センターを受診したいと思った」「味覚が耳鼻科とは知らなかった」「ひとり暮らしなので低栄養に気を付けたい」等のご感想をいただきました。

当センターは、認知症予防の啓発活動に加え、認知症になっても本人や家族が安心して日常生活を続けていけるよう、本人・家族への適切な支援、そして地域の専門職の方々との連携を大切にしていきたいと考えています。今後も、皆様のお役に立てる研修会を継続して企画してまいります。ご関心をお持ちのテーマがございましたら、是非ご参加ください。

